

本校舎 中学部

学部テーマ「生徒自らが『関わり、考え、表現する』総合的な学習の時間」

1 テーマ設定の理由

中学校新学習指導要領（総合的な学習の時間）では、改定の要点として、「探求的な学習の過程を一層重視し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものとするとともに、各教科等を超えた学習の基盤となる資質・能力を育成する。」を挙げている。また、目標の改善点として、『探求的な見方・考え方』を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質能力を育成する」ことを明確化した。

本校舎中学部では、総合的な学習の時間においてこれまでも「防災」、「進路や働くこと」、「身近な地域」、「様々な人との関わり」など、大まかな学習内容を学部内で共有して学習を行ってきた。単元ごとに、「課題の設定」→「情報収集や体験」→「まとめ・発表」などのプロセスを踏み、生徒の実態に応じた多様な学習を行うことで興味関心の広がりや課題解決の力、人と関わり社会で生きていく力の育成を図ってきた。しかし、これまでは各学年や学級独自で単元や目標を設定して学習しており、3年間でどのように学び、どのような力をつけるかということについては明確化されていなかった。

そこで、本研究においては、生徒の実態から、総合的な学習の時間を通して育成を目指す力を「生徒自らが『関わり、考え、表現する』」とした。研究実践を通して3年間の系統的な学習内容や方法の充実を図り、また目標や評価の在り方について検証することで、生徒自らが「関わり、考え、表現する」力の伸長を目指す。

2 研究方針

「総合的な学習の時間」の内容、目標、評価の観点を学年や教育課程ごとに整理・明確化し、3年間を通した系統的な学習の計画を「総合的な学習の時間 学習内容一覧表」としてまとめる。それをもとに授業実践を重ね、「生徒自らが『関わり、考え、表現する』」総合的な学習の時間の充実を図る。

このことにより、生徒がよりよく課題を解決し、自己の生き方を考え、実行していくための資質・能力を育む。

(1) 1年次

各学年、学級ごとの年間指導計画を基に、主な学習内容ごとの内容と目標の整理を行う。各学年ごとの目標から、3年間を通した学習の流れやねらいを検討し、「総合的な学習の時間 学習内容一覧表」を作成する。また、授業実践を通して作成した表の目標、内容、評価（観点）の妥当性について検討する。

(2) 2年次

1年次に作成した表を、年間指導計画や個別の指導計画等の目標・評価に反映し、授業実践を重ねることで、「生徒自らが関わり、考え、表現する」総合的な学習の時間の充実・改善を図り、また一覧表の記載内容の精査を行う。

そして、総合的な学習の時間の授業実践における生徒の変容や取り組みの成果から、「本校舎中学部3年間の総合的な学習の時間の学び」を研究成果としてまとめる。

3 令和2・3年度 研究経過・内容 ※4月と2月に全職員共通の内容を伝達する機会を設定

日にち	グループ全体	小グループ
R2年5月	・今年度の方向性について	・テーマ、内容により、小グループ編成メンバー決定
6月	・新学習指導要領「総合的な学習の時間」の目標の確認	・総合的な学習時間の、单元ごとの目標、評価基準の検討（学級ごと）
7月	・内容表作成のポイントの確認	・年間指導計画を基にした系統的な学習内容表の作成① ・キャリアパスポートの内容検討①
9月	・単元目標・評価規準と前期評価への活用について	・年間指導計画を基にした系統的な学習内容表の作成② ・キャリアパスポートの様式・内容検討②
10月		・研究実践
11月		・総合的な学習の時間学習内容表 ・キャリアパスポートの様式・内容検討（AB組）③
12月	・学部研修会「主体的・対話的で深い学び」に基づく授業改善 県南教育事務所 小野寺 良明 氏	・実践のまとめ
R3年1月	・実践報告、全校研究会に向けて ・全校研発表内容検討・確認	
5月	・昨年度の研究内容の確認と今年度の方針	・学習内容一覧表を基にした年間指導計画作成 ・3観点による目標の検討
6月		・学習内容一覧表を基にした年間指導計画作成 ・3観点による目標の検討
7月	・授業検討会 1学年「私たちの街と防災」	
9月	・総合的な学習の時間の評価の方法と実際	
10月	・授業検討会 3年A組「職場体験の振り返り」	
11月		・学習内容一覧表の最終検討 ・段階的で系統的な目標の設定
12月	・研究成果と課題のまとめ（成果と課題） ・一覧表の確認と今後の活用について	
1月	・学部研修会（オンライン）「発達障がいや愛着障がいのある生徒への指導の実際」 新潟大学教職大学院教授 長澤正樹 氏 ・研究のまとめ	

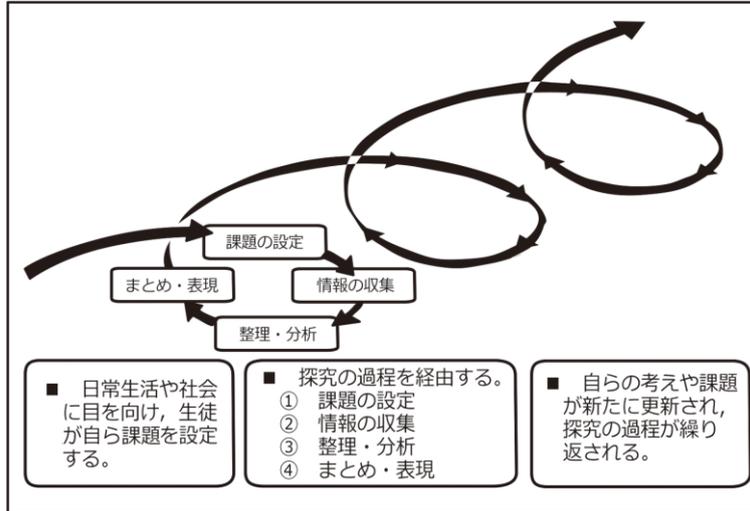
4 研究実践

(1) 1 年次

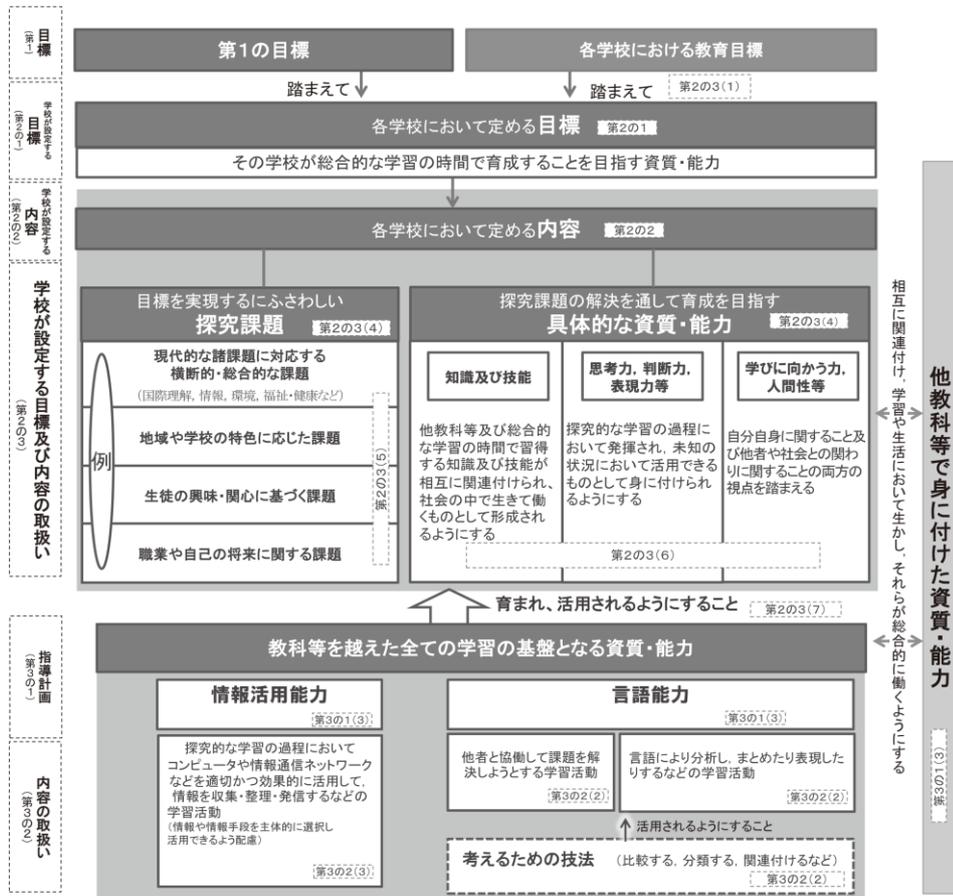
ア 総合的な学習の時間における学習のプロセスと、育成を目指す資質・能力の確認

本研究を進めるにあたり、新学習指導要領に示されている総合的な学習の時間の目標、学習のプロセス、育成を目指す資質・能力（【図1】、【図2】）について確認し、一覧表の作成や授業実践の参考とした。

【図1】 探究的な学習における生徒の学習の姿



【図2】 第4章 総合的な学習の時間の構造イメージ（中学校）



（中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編より）

イ 年間指導計画 各単元の目標設定

各学級で作成した、「総合的な学習の時間」の年間指導計画の単元ごと、「関わる、考える、表現する」をキーワードとして、具体的なねらいを設定した。また知的通常学級・病肢重複学級においては、生活単元学習と総合的な学習の時間のねらいの違いについて再検討し、内容や目標が混同していないか確認した。

しかし、知的通常学級・病肢重複学級における生活単元学習と総合的な学習の時間は、課題に対して各教科等で学んだことを生活に生かすという点で、学習内容やねらいを明確に分けることが難しい部分も多かった。また、総合的な学習の時間の「自ら課題を見出し探求的な学習を行う」ことは、生徒の学習上の特性として難しい場面も想定されるため、「探求的な学習」を行うにあたっては、具体的な指導内容を設定し、教科等の学習で培われた資質・能力を総合的に関連付けながら、生徒が自ら課題を解決できるように配慮することを確認した。

ウ 学習内容一覧表の作成

イの年間指導計画を参考に、中学部3年間で学ぶべき内容と目標について検討し、主な学習内容のまとめりごとに一覧表を作成した。ここで設定した内容や目標は、授業実践や評価に反映することで検証し、改善、充実を図ることとした。

総合的な学習の時間で取り扱う内容については、学習指導要領に記載されている4つの主な学習課題を基に、生徒の実態を踏まえて具体的項目を選定した。

<総合的な学習の時間で取り扱う主な学習内容>

- (ア) 地域や学校の特色に応じた課題 ⇒ 【地域学習、交流、校外学習等】【防災・復興】
- (イ) 職業や自己の将来に関する課題 ⇒ 【進路学習、キャリア】
- (ウ) 現代的な諸課題に対する横断的・総合的な課題 ⇒ 【外国語活動】
- (エ) 生徒の興味関心に基づく課題 ⇒ 【生徒の実態に応じて各学級で定める内容】

エ 「総合的な学習の時間 学習内容一覧表」の活用

作成した表を実際の授業で、単元や個々の目標、評価の参考として活用し、学習内容や目標が妥当であるか検証した。実践から得られた改善点を表に反映し、次年度へと引き継ぐこととした。

(2) 2年次

ア 「総合的な学習の時間 学習内容一覧表」を活用した年間指導計画の作成

1年次で作成した学習内容一覧表【資料1】から、学級ごとに今年度学習すべき内容を抽出し、総合的な学習の時間の年間指導計画に反映させた。また、年間指導計画の様式には、総合的な学習の時間（中学校）の目標を観点別に明記した。更に、「総合的な学習の時間 学習内容一覧表」の様式を年間指導計画の様式を活用したものに変更し、今後、年間指導計画や単元の指導計画を立てる際に活用しやすいよう工夫した。また、4つの主な学習課題について、再度教育課程ごとのグループで話し合いを行い、1年次に作成した一覧表に、学習内容（単元）ごと発達段階に応じた段階的な3観点の目標も加えることとした。【資料2】

イ 授業実践（授業検討会）

アで作成した一覧表の学習内容、目標の妥当性や評価の在り方について、授業検討会を実施し検討した。

学年全体で授業を行う際には、知的重複学級は教育課程上、総合的な学習の時間を実施していないため、生活単元学習として目標、評価基準を設定して授業を行った。研究の中で生活単元学

習と総合的な学習の時間のねらいの違いを確認してきたものの、知的通常学級と知的重複学級は同じクラスで活動している場合もあり、同じ時間に同じ学習を行う場合、ねらいを明確に分けて授業をすることの難しさが主な課題として挙げられた。

(ア)【単元名】「私たちの街と防災」

- a 対象：1 学年（A：病肢通常学級、B：聴覚通常学級、C1：知的通常学級、C2：知的重複学級、D 病肢重複学級）
 b 単元の目標

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
県南の歴史や災害についてどのようなものがあるか知り、特に一関地域の水害の歴史と防災について知ることができる。	図をはったり、しおりに書き入れたりして、調べたことや経験したことをまとめようとする。	友だちと協力して、課題を達成したり、災害について調べたことや経験したことをみんなの前で発表したりしようとしている。

- c 本時：まとめ「俳句を発表しよう」

組	本時の目標
A組	<ul style="list-style-type: none"> 気に入った句を選び、その理由を話すことができる。 自分の句を読むことができる。
B組	<ul style="list-style-type: none"> 気に入った句を選び、その理由を話すことができる。 自分の句をはっきりとした声で読むことができる。
C1組	<ul style="list-style-type: none"> 気に入った句を選び、理由を話すことができる。 自分の句をはっきりとした声で読むことができる。
C2組 (生単)	<ul style="list-style-type: none"> 気に入った句を選ぶことができる。 自分の句を教師と一緒に発表することができる。
D組	<ul style="list-style-type: none"> 気に入った句を選ぶことができる。 自分の句を教師と一緒に読むことができる。

- d 授業研究会 協議の柱

「教科横断的な題材の選定と総合的な学習の時間における目標・評価について」

<成果>

- ・実態に合った目標と評価だった。
- ・各クラスの共通の課題として「俳句」を設定したことで、それぞれ学んだことを自分に合った表現で発表できていた。
- ・校外学習の見学先について学び、まとめる一連の学習の中で、社会、国語、理科、美術など様々な教科を関連づけて学習できるよう単元が構成されていた。

<課題>

- ・教育課程によって「生単」と「総合」のねらいを分けて指導する必要があるが、合同の学習の中で分けて指導するのが難しい。
- ⇒各教科で学んだことを生かして課題解決をするのが総合である。目標の設定の仕方として、「総合」であれば、国語等の教科で学んだことを活用して、校外学習の学びを俳句で表現する。「生単」であれば、経験したことを俳句を使って表現するというような目標設定にしてはどうか。各教科の学習を「総合」の中でどう生かすか、どのような力をつけるかを教師側があらかじめ計画の中でつかんでおくことが大切。

(イ) 【单元名】「職場体験学習」

a 対象：3年A組（病肢通常学級）

b 单元の目標

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
職場体験を通して、様々な職業に対する知識や関心を深めるとともに、働くことの意義や働く人の思いを理解する。	体験した職業の社会的役割や意義に気づき、体験で得たことを学校生活や進路選択にどのように生かすかを考える。また、それらを発表したり実践したりしようとする。	職場体験で得たことから自己の生き方について考え、学んだことを進んで生活に生かそうとしている。

c 单元の評価の観点

観点	評価基準
知識・技能	体験先について調べたり体験したりすることを通して、職業に対する知識や関心が深まっている。また、働くことの意義や働く人の思いを理解することができている。
思考・判断・表現	体験した職業の社会的役割や意義に気づき、体験で得たことを学校生活や進路選択にどのように生かすかを考えている。
主体的に取り組む態度	職場体験で得たことや友達の発表から、学んだことをどのように生活に生かすかを考え、実践しようとしている。

d 本時：「職場体験を振り返ろう」（第四次 第1時）

e 本時の目標

- ・職場体験の目標について振り返ったり、体験で学んだことや感じたことをまとめたりして、発表し合う。（思考・判断・表現）
- ・働くことの意義や、新たな自分のよさや課題に気づき、これからの生活や進路について考える。（主体的に取り組む態度）

<協議>

- ・一次の学習段階では、発言する言葉も限られ、小学校での経験不足が予想できた。職場体験前のルールやマナーについては「ロールプレイ」を重ねることで対応した。
 - ・四次である本時の「体験学習を振り返ろう」で記入された内容から、一次の段階からの飛躍的な表現力の伸びが見られ、主体的に取り組む態度でねらったとおり、職場体験が生活の新たな目標に反映された。
 - ・「見学」のみでなく「体験」をすることが大切であり、段階的な学習として校内での「職場体験」の場として、作業学習や実習、学校技術員との仕事体験、幼稚部での保育に関する体験等を活用するのもよいのではないか。
- ⇒生徒の実態に応じて、病肢通常学級、聴覚通常学級も校内での実習を体験するなどの段階を経ることで、外部での職場体験の学びが深まり、自分の進路や課題についてより具体的に考えられるようになるのではないか。

ウ 「総合的な学習の時間」の評価について

総合的な学習の時間の評価をするにあたり、評価基準や個別の指導計画、指導要録等に評価を記入する際の注意点について学習会を実施し、実際の評価に生かした。

評価の観点や記載する際の文言についてのほか、学習の中で見取った生徒の姿をワークシートや振り返りシートなどのポートフォリオ、発表の内容など、客観的に評価できるものを評価材料とすることなどを確認した。

<観点ごとの評価のポイント>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成（他の学習や生活の場面でも活用できるほどの概念）し、探究的な学習のよさを理解しているか（様々な生活場面も含めて子ども自らが探究的な学習を進めるようになることが、よさを理解していること）を評価する。	探究的な学習の 「課題の設定」 体験などを通して、課題を設定し課題意識をもつ 「情報の収集」 必要な情報を取り出したり収集したりする 「整理・分析」 収集した情報を、整理したり分析したりして思考する 「まとめ・表現」 気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現するの4つの視点を評価する。	課題解決に向かう主体的な態度と、多様な考えを生かして新たな知を創造しようとする協働的な態度の形成を基盤として、粘り強く取り組もうとする側面と、自らの学習を調整しようとする側面の二つを見取る。

- 学習の中で課題を解決する過程で、自ずと教科の内容を学ぶのが「生活単元学習」であり、各教科で学んだ内容を総合的に生かして自ら課題を設定し、課題解決に向けて取り組むのが「総合的な学習の時間」である。評価についても、区別する必要がある。
- 「総合的な学習の時間」では、生徒が自ら課題を解決しようとし、「友達と協働して解決に向けて活動したり」、「情報を収集し選択したり」、「具体的に活動したり」、「分かったことをまとめて発表したり」、「分かったことを基によりよく行動しようとしたりする」姿を見取って評価することが重要である。

5 成果と課題

(1) 成果

- 総合的な学習の時間の学習内容一覧表を作成することで、これまでの取り組みについて整理し、単元ごとのねらいや学習内容の精査ができた。
- 学級、学年をこえて話し合い、それぞれの教育課程における学習内容やねらいを共有することで、3年間を見通した学習の流れを確認し、学部や学年全体が同じ方向性で実施できるようになった。
- 学部研修を行い、新指導要領「主体的・対話的で深い学び」と学習評価、生徒自身が「何を」「どのように学ぶか」、「自ら学びや解決の方法を探り、気づく学びのプロセス」について学び、授業改善の一助となった（1年次）。
- 病肢通常学級、聴覚通常学級では、総合的な学習の時間の中で「現在の自分の課題や興味関心に目を向け、自己の生き方や将来について考えたり、学んだことを自己と結びつけて自分の成長を自覚したりすること」について学習する際、キャリアパスポートを活用するため、本研究で生徒の実態に応じたシート【資料3】を検討、作成した(1年次)。
- 3観点で目標を整理したり、発達段階ごとにどのように評価すべきかを確認したりできた。

(2) 課題

- 授業実践から、多くの教育課程が混在する中で共通の学習活動をする際、目標や学習計画を立てるのが難しいことがあった。目標の立て方や総合的な学習の時間と生活単元学習の目標、評価、指導の具体については、今後も研修や授業研究を行い、理解を深めて指導にあたる必要がある。
- 学習内容一覧表を授業実践や評価の充実につながるツールとして活用するためには、今後も一覧表を活用して、年間指導計画や個別の評価を行うことで、より精査し、積み上げて行く必要がある。

6 まとめ

学部研究を通して、中学部でこれまで取り扱ってきた総合的な学習の時間の内容から、3年間で学ばべき、具体的な学習内容と発達段階に応じた目標について再検討し、「総合的な学習の時間 学習内容一覧表」としてまとめた。一覧表の作成を通して、総合的な学習の時間で本校中学部の生徒が身に付けるべき力や学習の進め方、各教科との関連等について共通理解を図ることができた。

今後は一覧表を年間指導計画や個別の指導計画等の目標立てや評価にも活用できるツールとし、生徒が個々に設定した課題をより広く深い学びへとつなげていく総合的な学習の時間をつくるために、内容を精査し、実践を積み重ねて行きたい。そして、自らが『関わり、考え、表現する』力を身に付け、自己実現へと結びつく総合的な学習の時間の充実を図っていきたい。

〈参考文献〉

- 1 中学校学習指導要領（平成29告示）解説 総合的な学習の時間編 文部科学省 平成29年7月
- 2 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）文部科学省平成 平成30年3月
- 3 国立教育政策研究所教育課程研究センター 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 総合的な学習の時間】 令和2年7月
- 4 令和3年度 県南教育事務所 教育課程地区別研修会資料 中学校 総合的な学習の時間

1年次 総合的な学習の時間 学習内容一覧表（一部抜粋）

①地域や学校の特色に応じた学習【地域学習、交流、校外学習など】

項目	学習内容	目標（どのような力をつけるか）
一関市	旧市外の地域について	<ul style="list-style-type: none"> 旧市外の地域について知っている地域名を考え、伝える 地域名と名物や名前を組み合わせで知り、関心を広げる 見学や体験で知ったことをまとめる
岩手県	胆江地域の産業	<ul style="list-style-type: none"> 胆江地域の産業（自動車、鋳物、農業）がどんなものかを考え、伝える
	盛岡地域	<ul style="list-style-type: none"> 盛岡市の特色・特徴についてどんなものか考え、伝える 盛岡の『食文化（名物、特産、偉人、歴史、祭り等、生徒の実態に合わせて）』を知り、興味を広げる 見学や体験等から分かったことや伝えたいことをまとめて発表する
	沿岸地域	<ul style="list-style-type: none"> 陸前高田市の復興の姿を様々な情報により知る 復興支援学習において住んでいる人々の復興への思いを見聞きし、分かったことや伝えたいことをまとめて発表する

②地域や学校の特色に応じた学習【防災や健康に関する学習】

項目	学習内容	目標（どのような力をつけるか）
身近な防災	（通年） 避難訓練 防災設備について 防災袋、備蓄品について	(Ⅰ)避難経路や避難方法を知、自分を守ることができる (Ⅱ)防災袋の準備や管理等、災害に対して考え、備えることができる (Ⅲ)防災学習で学んだ事柄から、状況に応じて自分で考え実践することができる
自分ができること	(1年)一関市の水害 (2年)東日本大震災 (3年)東日本大震災から学ぶ	(Ⅰ)学習や見学を通して、家族や身近な人と災害が発生した際、どうするかについて話し合うことができる (Ⅱ)災害後の人々の取り組みについて学び、自分たちができることについて考え、意見交換ができる (Ⅲ)復興支援活動について調べ、情報収集を行い、社会の一員として貢献できる活動について考え、実践することができる

③職業や自己の将来に関する学習【進路、キャリア】

項目	学習内容	目標（どのような力をつけるか）
職場見学	作業所見学	(Ⅰ)作業所や福祉施設を見学し、働く場所や様子を知る (Ⅱ)どんな仕事があるか具体的に知り、自分がやってみたいことを考える (Ⅲ)見学や体験を通して職場環境や仕事内容の違いを知り、気付いたことを基に自分の働く姿について考える
働く	家族の仕事	(Ⅰ)身近な家族の仕事や働き方を知る
	働く人の一日	(Ⅲ)働く人の一日の過ごし方を知る

本校舎中学部 総合的な学習の時間 学習内容一覧表

【地域や学校の特色に応じた課題】

地域や交流などに関する学習 地域の学習(全教育課程共通)

○単元 ・主な指導内容	学習目標		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	探求的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探求的な学習のよさを理解できるようにする。 ①概念的な知識の獲得 ②自在に活用することが可能な技能の獲得 ③探求的な学習のよさの理解	実社会や実生活の中から問いを見出して課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現できるようにする。 ①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現	探求的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。 ①自己理解・他者理解 ②自ら取り組んだり力を合わせたりする「主体性・協働性」 ③未来に向けて継続的に社会に関わるうとする「将来展望・社会参画」
・一関地域	I 自分たちの住む地域を知る。	I 体験したことや学んだことをまとめることができる。	I 自分の役割が分かり、分担して活動することができる。
・胆江地域 (自動車工場、郵便局、铸造他) ・花北地域 (ヤクルト、シチズン、宮澤賢治、他)	I 自分の住む地域には、どんなものが作られているか知る。 II 地域の産業や製品が自分の生活に関わっていることを理解する。 III 調べたり体験したりして収集した情報を図や文章でまとめる方法が分かる。	I 体験したことや学んだことをまとめることができる。 II 見学して学んだことを整理してまとめ、発表することができる。	I-III 見学先について、興味関心をもち、調べ学習に取り組んだり、熱心に見学することができる。
・県央地域 (盛岡地域について知ろう (盛岡の食文化、名所、盛岡こども科学館などの見学施設))	I 盛岡の文化や産業、特産などについてどのようなものがあるか知る。	I 盛岡について、自分が興味関心がある分野を選んで調べ、自分に合った方法でまとめたり発表したりできる。 II 見学先で学んだことや感想を、他者に分かるよう考えて発表することができる。	I 見学先や盛岡の文化に限らず、住んでいる地域や県内の他の地域にも興味関心をもち、進んで学習に取り組むことができる。 II 東北や日本の文化について興味関心をもち、進んで学習に取り組むことができる。
・一関、平泉で起きた災害(1年)	I 災害についてどのようなものがあるか知り、特に一関地域の水害の歴史と防災について知る。	I 図を貼ったり、しおりに書き入れたりして、災害について調べたことや経験したことをまとめることができる。	I 友だちと協力して、課題を達成したり、災害について調べたことや経験したことをみんなの前で発表したりすることができる。
・岩手の災害・東日本大震災(2年)	I 東日本大震災について知る。 II 津波と津波の被害、避難の仕方を理解する。 III 陸前高田の松林を復興させようとする活動や一本松について理解する。	I 東日本大震災の津波の被害について調べ、津波からどのように避難したらよいか考えることができる。 II 自分の命を守るために、必要なことを考えることができる。 III 復興のために自分にもできることがあることに気づき、進んで活動に取り組むことができる。	I みんなで協力し合いながら、意欲的に松苗畑の草取りに取り組む。 II 東日本大震災について、興味関心をもって学習に参加する。
・地域ごとの防災(3年) ・暮らしと自然、災害の関わり	I 沿岸での災害について内陸との状況の違いに気付く。 II 災害と地域の特色について知り、地域に適した防災について理解する。	I 内陸や沿岸などそれぞれの場所で地震に遭遇した場合の正しい行動を考えられる。 II 地域や災害ごとの避難の方法や避難場所について考え、判断することができる。	I 地域ごとの災害への備えや避難の方法について生活で活かそうとする。 II 防災や復興のために自分にできることを実行しようとするすることができる。

本校舎中学部 総合的な学習の時間 学習内容一覧表

【地域や学校の特色に応じた課題】

防災や健康に関する学習(全教育課程共通)

○単元 ・主な指導内容	学習目標		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	探求的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探求的な学習のよさを理解できるようにする。 ①概念的な知識の獲得 ②自在に活用することが可能な技能の獲得 ③探求的な学習のよさの理解	実社会や実生活の中から問いを見出して課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現できるようにする。 ①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現	探求的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。 ①自己理解・他者理解 ②自ら取り組んだり力を合わせたりする「主体性・協働性」 ③未来に向けて積極的に社会に関わろうとする「将来意識・社会参画」
○身近な防災 ・防災袋、校内防災設備 ・避難経路、避難場所 ・避難訓練	I 指示を聞いて避難することができる。 II 防災袋の中身や校内防災設備、校内の避難経路や避難場所を確認することができる。 III 災害時に自分の身を守るために必要なことについて理解する。(避難経路、防災袋、非常口など) IV 避難経路や災害に応じた避難方法を理解し、また、防災袋の中身の使い道について理解する。	I 避難訓練では、注意すべきことを意識して参加することができる。 II 避難経路を考え、安全に注意して避難することができる。 III 自分が災害に逢ったときを想像し、適切に自分の状態を把握し、近くの人に適切な言葉で助けを求めたり、困っていることを伝えようとしている。	I 真実に避難訓練に参加し、自らの安全を守る行動をとることができる。 II 様々な状況に応じて、指示に従い避難行動をとったり、防災袋の中から必要なものを自分で取り出し、使ったりしようとする。 III 様々な状況に応じて自ら最適な避難行動をとったり、自分に必要な物が分かり、自分に合った防災袋の中身を準備したりすることができる。
・自宅での避難場所 ・ハザードマップ	I 地域のハザードマップについて知り、自宅で被災したときの避難場所を確認することができる。	I 危険箇所や危険回避の方法について学び、選択することができる。	I ハザードマップに自分の家や友だちの家、学校を書き入れたりして、気をつけて生活しようとするすることができる。
○私たちの街と防災 ・一関、平泉で起きた災害(1年) ・岩手の災害・東日本大震災(2年)	I 災害についてどのようなものがあるか知り、特に一関地域の水害の歴史と防災について知る。 II 東日本大震災について知る。 III 津波と津波の被害、避難の仕方を理解する。 IV 陸前高田の松林を復興させようとする活動や一本松について理解する。	I 図を貼ったりし、おりに書き入れたりして、災害について調べたことや経験したことをまとめることができる。 II 東日本大震災の津波の被害について調べ、津波からどのように避難したらよいか考えることができる。 III 自分の命を守るために、必要なことを考えることができる。 IV 復興のために自分にもできることがあることに気づき、進んで活動に取り組むことができる。	I 友だちと協力して、課題を達成したり、災害について調べたことや経験したことをみんなの前で発表したりすることができる。 II みんなで協力し合いながら、意欲的に松苗畑の草取りに取り組む。 III 東日本大震災について、興味関心をもって学習に参加する。
・地域ごとの防災(3年) ・暮らしと自然、災害の関わり	I 沿岸での災害について内陸との状況の違いに気付く。	I 内陸や沿岸などそれぞれの場所で地震に遭遇した場合の正しい行動を考えられる。 II 地域や災害ごとの避難の方法や避難場所について考え、判断することができる。	I 地域ごとの災害への備えや避難の方法について生活で活かそうとする。 II 防災や復興のために自分のできることを実行しようとするすることができる。
○望ましい食生活 ・食事調べ ・野菜の収穫 ・栄養素、リクエストメニュー作り	I 家庭の食事について調べ、メニューを書くことができる。 I 指示を聞き、野菜を収穫することができる。 II 「三食品群」や栄養素の働きについて知る。	II 献立に使われている食品を「三食品群」(赤・黄・緑)に分けることができる。 III 食事を振り返り、望ましい食事の大切さに気付くことができる。	I 自分たちでバランスのよい給食のメニューを考えたり、みんなの前で発表したりする。 II 健康的な食生活について学んだことを生活の中で活かそうとする。

本校舎中学部 総合的な学習の時間 学習内容一覧表

【職業や自己の将来に応じた課題】

進路やキャリアに関する学習(病肢通常、聴覚通常)

○単元 ・主な指導内容	学習目標		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	探求的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探求的な学習のよさを理解するようになる。 ①概念的な知識の獲得 ②自在に活用することが可能な技能の獲得 ③探求的な学習のよさの理解	実社会や実生活の中から問いを見出して課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現できるようにする。 ①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現	探求的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。 ①自己理解・他者理解 ②自ら取り組んだり力を合わせたりする「主体性・協働性」 ③未来に向けて継続的に社会に関わろうとする「将来展望・社会参画」
○職場見学	I 様々な職業があることを知る。	I 様々な職業について調べ、働くことの目的について考える。	I 自分の関心のある職業についてより深く知ろうとする。
	II 様々な職業があることを知り、その職業や働くために必要な力について理解する。 II 地域の職場について調べ、生産から流通までの流れを知る。	II 様々な職業について調べ、働くことの目的について考え、働くために自分に必要な力について考える。 II 調べ学習や見学で学んだことについてまとめ、発表する。	II 自分の関心のある職業について自主的に調べるなどしてより深く知ろうとする。 II 職場見学で学んだことを生かし、働くことへの意識を高めたり、生活の中で工夫したりしようとする。
	III 職場体験をとおして、様々な職業に対する知識や関心を深めるとともに、働くことの意義や働く人の思いを理解する。	III 体験した職業の社会的役割や意義に気づき、体験で得たことを学校生活や進路選択にどのように生かすかを考えている。また、それらを発表したり実践したりしようとする。	III 職場体験で得たことから自己の生き方について考え、学んだことをすすんで生活に生かそうとする。
○働くこと ・清明祭販売	I 働くことに関心を持ち、販売活動を通して、働くことの目的などを知る。	I 販売活動を通して、感じた関心をもとに課題をつくり、見直しをもって、製品づくりの計画(価格設定・利益など)や役割を考えることができる。	I 自他の意見や考えのよさに気づく。
	II 働くことに関心を持ち、販売活動を通して、働くことの目的などを理解する。	II 見直しをもって取り組むために、製品づくりの計画(価格設定・利益)や役割を考えることができる。	II 自他の意見や考えの良さを生かしながら、販売の成功に向けて協同して取り組もうとする。
○進路に関すること	I さまざまな職業や、進学などの進路の選択肢について知る。	I 興味のある高校や職業について、調べることができる。	I 高校進学や働くこと、働く人について関心を持ち、意欲的に学ぼうとする。
	II 進学や就職など、進路についての流れを知り、高校進学や働くことについて理解する。	II 高校進学や就職について調べ、自分の将来について考える。	II 目指す進路に向けて、必要な学習にすすんで取り組むことができる。
	III 県内の高校や支援学校について、見学などをそれぞれの特徴や違いを理通して理解する。	III 調べ学習や見学で知った学校の特徴を基に、自分に合った進路を選択する。	III 自分の希望する進路や将来の夢に向けて、必要な学習や生活課題に意欲的に取り組もうとする。

本校舎中学部 総合的な学習の時間 学習内容一覧表

【職業や自己の将来に応じた課題】

進路やキャリアに関する学習(知的通常、病肢重複)

○単元 ・主な指導内容	学習目標		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	探求的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探求的な学習のよさを理解するようにする。 ①概念的な知識の獲得 ②自在に活用することが可能な技能の獲得 ③探求的な学習のよさの理解	実社会や実生活の中から問いを見出して課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現できるようにする。 ①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現	探求的な学習に主体的・協力的に取り組むとともに、互いのよさをまかしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。 ①自己理解・他者理解 ②自ら取組んだり力を合わせたりする「主体性・協働性」 ③未来に向けて継続的に社会に関わろうとする「将来展望・社会参画」
○職場見学	I 福祉作業所を見学し、どのような仕事があるか見たり体験したりして知る。 II 福祉作業所を見学し、働くために必要なことが分かる。 III 福祉作業所を見学し、働くためにはどのような力が必要か、大切さを理解している。	I 見学先について、働く場所であることを意識して参加することができる。 II 自分が疑問に思ったことを質問できる。 II 興味のある仕事やどんな仕事をやりたいか考えて発表することができる。 III 見学して学んだことを整理してまとめ、発表することができる。	I 「働くこと」に興味関心をもち、意欲的に見学に参加する。 II 各見学先で、自分が働くことを想像しながら見学しようとする。 III 学んだことを通して、働くことの大切さ、将来自分が働くことを意識しながら生活することができる。
○働くこと ・身近な仕事	I 家の中には、どのような仕事があるか知る。 II 学級の中には、どのような仕事があるか知る。 III 学校の中には、どのような仕事があるか知る。	I 家の中で、自分にできる役割を考える。 II 学級の中で、自分にできる役割を考える。 III 学校の中で、自分にできる役割を考える。	I 家の中で、自分にできる役割に取り組もうとする。 II 学級の中で、自分にできる役割に取り組もうとする。 III 学校の中で、自分にできる役割に取り組もうとする。
・いろいろな仕事	I 世の中にどんな仕事があるか調べる。 II 家族がどんな仕事をしているか調べる。 III 職場見学や校外学習などを通して、様々な仕事や働き方があることを理解する。	I 自分の興味がある仕事を選ぶことができる。 II 家族の仕事について調べ、まとめる活動を通して、働くことの大切さに気付く。 III 職場見学や校外学習などについてまとめる活動を通して、働くことの大切さに気付く。	I 興味がある仕事をするために必要なスキルを教師と一緒に考えようとする。 II 家族のために、自分にできることをやろうとする。 III 地域のために自分にできることをやろうとする。
○働くために ・身近自立、健康管理、規則正しい生活、挨拶、返事、報告、連絡、相談、清潔、身だしなみ等	I 働くために必要なスキルを知る。 II 働くために必要なスキルが分かる。 III 働くために必要なスキルを理解する。	I・II 働くために必要な課題スキルを考える。 III 場面に応じた行動をすることができる。	I・II 課題スキルに取り組もうとする。 III 場面に応じた行動をしようとする。
○進路を考える	I 中学部を卒業することが分かる。 II・III 中学部卒業後の進路の選択肢を知る。	I 保護者や教師と進路先を見学し、進路へのイメージをもつ。 II・III 中学部卒業後の進路について、見学などを通して考えたり選択したりする。	I 進路学習で分かったことから、教師と一緒に目標を考え、学校生活で生かそうとする。 II・III 卒業後の生活や進路先に興味関心をもち、学習に参加しようとする。

病肢通常学級、聴覚通常学級キャリアパスポート 様式（一部抜粋）

シート 1

年生 目標を決める

写真を貼ろう 氏名 _____ 記入日： 令和 ____ 年 ____ 月 ____ 日

「なりたい自分」について考え、目標を決めよう

①今の自分を見つめて

_____ 年生になった今の気持ち

自己PR(自分のよいところ、好きなこと、得意なこと、頑張っていること)

②将来のこと

こんは大人になりたい

そのために、今頑張りたいこと、付けたい力

シート 1

③今年目標

学習目標

 そのために

生活目標

 そのために

その他(家庭、地域、生徒会、スポーツ、賞状取得などなんでも)

 そのために

1年後の自分への応援メッセージ

先生からのメッセージ	保護者などからのメッセージ
------------	---------------

シート 3

1年生 1年間を振り返ろう

氏名 _____ 記入日： 令和 ____ 年 ____ 月 ____ 日

今学期の自分のことを振り返ってみよう (右の項目で自分の気持ちに最も近いもの1つに○をつける)	①目標達成	②目標達成	③目標達成	④目標達成
① 将来の夢や目標を持っていますか。				
② 授業では、課題を解決するために、自分で考え、自分から取り進んでいたと思いますか。				
③ 学級や学年などの交流を活かして活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることはできていますか。				
④ 人が困っているときは、進んで助けようと思えますか。				
⑤ 自分にはよいところがあると思えますか。				
⑥ 運動やスポーツは好きですか。				
⑦ 楽しめる趣味がありますか。				
⑧ 困ったときには人に相談することができますか。				

目標の振り返りと、今後挑戦・行動しようと思うこと

学習目標について

がんばったこと	次の学年での目標
→	

生活目標について

がんばったこと	次の学年での目標
→	

その他の目標について

がんばったこと	次の学年での目標
→	

シート 3

1年間を振り返って、発見した自分のよさや、身についたと思うこと

2年生になる自分へのメッセージ

卒業するときの自分(15歳の私)を想像しよう

卒業するときに、どんな自分になっていたか
15歳のあなたが選んでいる道(進路・職業など)
そう思った理由やきっかけ
15歳でなりたい自分にちかづくために、今、頑張りたいこと。

先生からのメッセージ	保護者などからのメッセージ
------------	---------------